

## 令和7年度 学校自己評価及び学校関係者評価書

学校教育目標 未来を拓く、創造性豊かで主体的な人間の育成  
 今年度の重点目標 自立と共生する心の育成  
 — 笑顔があふれ あたたかい学校の創造 —

保護者アンケート 評価  
 4 大変よい ⇔ 1 改善が必要

分野	評価項目	自己評価		保護者アンケート	学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	評価	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学 ぶ 力 の 育 成	学校は、子どもがなりたい自分を思い描き自ら計画して学習に取り組むことを大切に教育活動を行っていましたか。（「わたしノート」、出前授業などの進路探究的な学習、行事等の取組など）	B	保護者アンケートでは、肯定的な回答の割合が昨年度より3ポイント増え、90%となりました。児童アンケートでも「自分で計画し、『わたしノート』に取り組んだ。」と回答した児童が昨年度より3ポイント上昇し、83%となりました。継続的に粘り強く取り組んできた成果が出てきました。今後も、「わたしノート」だけではなく、キャリアパスポートやキャリア教育などの取組をとおして、「なりたい自分」に近づけるような支援をしていきます。	3.3	A	A
	学校は、子どもが考えたり、話し合ったりして課題を解決する課題探究的な楽しい授業を行っていましたか。	C	児童アンケートで、「授業中に進んで自分の考えを発表している。」「意見の違う人とも、良く話し合おうとしている。」と回答する児童が昨年度より微減となりました。「勉強していて面白い、楽しいと思うことがよくある。」と答える児童も、昨年度より7%減りました。この状況を鑑み、次年度はより一層、授業の質を高めることに重点を置いていきます。一つは、授業作りの基礎となる教材研究です。教材について、どのように解釈するのか、どのように授業の形にするのかなど、授業を基礎から見直し、子どもたちの学ぶ力を育成していきます。	3.4	B	B
	学校は、地域の環境や人材を生かした学習を行っていましたか。（生活科、総合的な学習の時間など）	B	昨年度に引き続き、6年生でのキャリア教育では、ゲストティーチャーとして様々な業種の方に話をさせていただいたり、スキー学習ではインストラクターに指導していただいたりしました。今年度はメグミルクやカルビーの出前授業や2名の助産師による出前授業など、新しい内容にも取り組んでいます。しかしながら、児童アンケートでの「地域に出掛けたり、いろいろな人から学んだりする学習は役に立つ。」という質問では、肯定的な回答をする児童が昨年度より5%減りました。子どもたちが「話を聞いてみたい」「実際に見に行ってみてみたい」と意欲・興味をもたせる授業の構成や関わり方に力点を置いていきます。	3.5	A	A
	学校は、子ども一人一人の理解や習熟が深まるような学習を行っていましたか。（専科指導（外国語）、TTなど）	B	算数学力テストの結果について全校の傾向をみると、過去6年間札幌市平均とほぼ同等か、やや上回る結果となっています。保護者アンケートでの肯定的な回答は、昨年度同様、高い評価をいただきました。一方、10パーセントの方が否定的な回答をされていることも注目すべきであると考えています。また、学力テストの結果も、全校的には札幌市平均を超えてはいますが、一人一人をみていくと、学習に対して苦手意識を持つ子どもも複数います。今後もマクロ的な視点だけでなく、ミクロ的な視点で子どもたちの学びの保障をしていきたいと考えています。	3.3	A	A
	学校は、クロームブックを多様な学びでの場面で活用し、「学ぶ力の育成」「情報活用能力の育成」に努めていましたか。	B	今年度はインフルエンザによる学級閉鎖が多く、体調が良好な児童へ対しての学びの保障として、クロームブックで学習課題をだしました。また、長期休業中の学習課題は、クロームブックを活用して取り組む内容としました。しかし、Wi-Fiルーターなどネット環境や充電に関する課題や、子どもたちの学習状況確認の難しさなどの課題もあり、長期休業中の課題に関しては、見直しが必要になってきました。クロームブックだけにとらわれず、ドリルの活用など、適材適所で教材を選択していきます。また、次年度は生成AIの活用についても、歩みを進めていきます。	3.5	A	A
	学校関係者評価委員からの意見・要望		学校における教育活動については、保護者などからの評価がアップしている点は良い傾向と思う。しかし、子どものアンケート結果において肯定的な回答が7%減ってしまうのは、問題があるのかと思う。「授業の質を高める。」ということより、「児童の興味は何なのか。」「どのような雰囲気での授業が楽しいのか。」ということを探ることが重要なのではないかと。そして、教員の育成にも力を入れてほしいと願っている。「改善の方策」に記載があるように、ミクロ的な視点で子どもたちに対応していただけたらありがたい。先生の負担にならないように。			

分野	評価項目	保護者アンケート		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	評価	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心の育成	学校は、挨拶やルールの遵守など生活の基本となる習慣づくりに努めていましたか。	B	昨年度より保護者の肯定的な回答が2ポイント増加しました。教職員からも、「校内では挨拶を返す姿が、以前よりたくさん見られた。」という声が上がっています。一方、児童アンケートでは、「進んで挨拶をしていない。」と否定的な回答をしている児童が低学年で目立ちました。低学年からの粘り強い指導が大切であるという教職員の声もあり、挨拶について重きを置いて指導をしています。	3.5	A	A
	学校は、「特別の教科 道徳」の学習などを通して心の教育に努めていましたか。	B	保護者アンケートでは肯定的な回答が2ポイント上昇し、90%となりました。本校では、昨年度まで「特別の教科『道徳』」の研究を行っており、道徳教育の充実には注力してきました。ここ数年、保護者アンケートの肯定的な回答が増加しているのはその成果と考えております。ただ、「道徳の学習では、よく考えたり、友達の考えを聞いたりしている。」と答える子どもは若干減ってしまいました。（4ポイントの減少。）先述しましたが、教材研究や授業の見直しを図り、「特別な教科『道徳』」の授業の質を向上させていきます。	3.4	A	A
	学校は、家庭と連携した学習習慣づくりや生活習慣づくりに努めていましたか。（わたしノートや宿題、個人懇談など）	B	児童アンケート「自分で考え、計画を立てて、『わたしノート』に取り組んでいる。」と回答する児童が、3ポイント増え、83%となりました。ここ数年、上昇しています。保護者アンケートも、肯定的な回答が昨年度より1ポイント増え、91%となりました。「わたしノート」がしっかりと定着してきていることの表れだと考えています。宿題に関しては、先述したクロームブックの使用環境の問題があります。また、全校統一の宿題と学年の実態との間で、運用の柔軟性が課題になる場面もありました。一つの方法に固執せず、柔軟な運用を目指していきます。	3.4	A	A
	学校は、子どもの悩みやいじめなどの問題の早期発見や迅速な対応に努めていましたか。（「いじめや悩みに関するアンケート調査」、日常の学年・学級の指導など）	B	保護者アンケートでは、肯定的な回答が昨年度より2ポイント増加しました。また、この質問へのA回答（あてはまる）の割合は、令和4年度以降、増加し続けています。昨年度より実施している「シャポテンログ」による朝の心の健康観察やいじめアンケートの実施による早期対応の取組が、保護者の皆様に評価いただけていると考えております。次年度もこの取組を続けながら、保護者の皆様と連絡を密にして、子どもたちが安心できる学校づくりを目指していきます。	3.5	A	A
	学校は個々の子どもの困りに応じ、適切な指導や支援を行っていましたか。（スクールカウンセラーや特別支援コーディネーターの活用、関係機関との連携など）	B	今年度は、保護者ではなく子ども本人とのスクールカウンセリングの実施や、スクールソーシャルワーカーとの連携など、人的な体制を昨年度以上により一層整えました。保護者アンケートでは、昨年度と同様、高い評価をいただいておりますが、児童アンケート「困ったことや心配なことを相談している」という設問の肯定的な回答が6ポイント減少しました。先生に声を掛けやすい環境づくり、言いにくいことも相談しやすくなる関係づくりを目指していきます。	3.3	A	A
	学校関係者評価委員からの意見・要望		子どもたちは、カウンセラー等の方々と普段から顔を合わせているわけでもないため、高い仕切りのようなものがあり、素直に思っていることを話したりするのも難しいことと思われる。SCとの面談の前に、十分話し合いができる環境をつくる必要で重要だと思われる。挨拶については、通学中の子どもたちに声を掛けると、返してくれる。道徳について、アンケートで90%になっているのは、長年道徳教育に力を入れてきた結果だと思う。授業だけでなく日常的に伝えていくなど、工夫するのもよいと思う。「わたしノート」は、子どもたちのみならず、栄南小学校特有の学習として、保護者にも浸透してきている。			

分野	評価項目	自己評価		保護者アンケート	学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	評価	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
健やかな身体の育成	学校は、体を動かして元気に遊ぶ場を工夫して体力の向上を図っていましたか。(縄跳びチャレンジなど)	C	毎年5年生が実施している全国体力テストでは、男女ともに「握力」や「20mシャトルラン」などの数値が高い傾向があります。縄跳び運動に重点を置いて取り組んでいる成果だと考えています。しかし、今年度は全体的に数値が低く、取組の見直しの必要性が高まっています。次年度は、全校で統一して行う「縄跳びを使った準備体操」など、一歩進めた取組を計画しています。	3.5	A	A
	学校は、保健指導や食育を通して子どもの健康に対する意識を高めていましたか。(保健指導、保健だより、給食指導、たまねぎ週間など)	B	毎回、保護者の皆様から高い評価をいただいている項目です。保護者アンケートの肯定的回答は91%と昨年と同じですが、細かにみると(とてもあてはまる)というA回答が昨年度より、5%増加しました。数年前から給食試食会を再開し、保護者の皆様へ食指導について説明させていただく場になっております。今後も引き続き、保健指導や食指導の充実を図っていきます。	3.7	A	A
	学校関係者評価委員会からの意見・要望	体力テストの結果について、男子は素晴らしい数値が出ているが、女子の結果をみると身体的か精神的か何らかの原因があるのではと思う。休み時間等の過ごし方も含めて考える必要がある。休み時間を使って体育館で走り回ったり、縄跳びをしたりして、体を動かす習慣を身に付け、体力向上を図ることがよいかも。最近公園などで遊ぶ子供の姿をあまり見なくなったので、体力も下がっているようにも思われる。学校で体力向上を図る取組を実施してくれているところはありがたい。給食試食会も実施してくれ、保護者が給食を食べる機会があるのはよいと思う。				
分野	評価項目	達成状況	改善の方策	保護者アンケート	学校関係者評価	
				評価	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
信頼される学校づくり	学校は、家庭や地域と連携し安全・安心の確保に努めていましたか。(安全見守り、スクールゾーン実行委員会、すぐーる配信など)	B	今年度は、熊の目撃情報や暴風雪による休校など、「すぐーる」を活用した連絡を頻繁に行いました。不審者情報も数件発信し、子どもたちの安全を守る取組を行いました。「PTA」の皆様や「おやじの会」の方々も地域を見回ってくださり、地域・保護者の皆様に支えられていることを改めて実感しています。また、今年度の夏から、まちづくりセンターや町内会長など学校に関係がある地域の皆様にも不審者情報や休校などの情報を伝えることができるよう、専用の「すぐーる」を開設しています。	3.6	A	A
	学校は、教育活動について分かりやすく保護者に伝えていましたか。(教育活動説明、学校ホームページ、参観懇談資料、学校だよりなど)	B	この項目でも保護者アンケートは、昨年度より肯定的な回答が2ポイント増加し、92%となりました。今年度から、保護者学校間連絡システム「すぐーる」で学校便りや給食便り、保健便りなど主要なお便りを配信し、漏れなく確実に保護者の皆様に見ていただけるよう配信方法を変更しました。保護者の皆様の高い評価は、これらの取組が評価された結果だと考えています。今後は更に一歩進め、学校教育の方針をより一層周知し、保護者の皆様の理解をいただけるよう取り組んでいきます。	3.4	A	A
	学校は、地域と連携した取組を行っていましたか。(中学校や幼稚園・保育園との連携、地域学校共同活動推進事業<走り方教室、盆踊りなど地域と連携した取組>)※R02～R05は無し	B	コロナ禍では、地域と連携した取組を行うことができなかつたため、この項目は削除していましたが、昨年度、令和元年ぶりにこの項目を復活させました。昨年度以上に幼稚園・保育園との交流を進め、現1年生は近隣の複数の幼稚園・保育園と交流を行いました。今年度から、コミュニティ・スクールの取組も始まり、元町北小学校と栄南中学校と連携を進めています。初年度にあたる今年は、当事業のねらいや活動の確認、各学校の現状などの交流を行いました。来年も引き続き、地域との連携を図っていきます。	3.5	A	A
	学校関係者評価委員会からの意見・要望	「すぐーる」のシステムは、我々町内会関係者としても有意義なものとして捉えている。保護者と交流するきっかけとなったり、防犯等に関しても役員への声掛けにより防犯意識の高揚になったりしている。これからの信頼される学校づくりは、地域の人々たちとのつながりが大切になってくる。近寄りづらい学校よりも親近感のある学校を目指していただきたい。栄南小学校の児童はほぼ栄南中学校へ入学するので、小中の連携強化や地域住民にあたる子どもたちの見守りの意識を高めてもらえるような取組を継続していただきたい。				